

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭59-42075

⑬ Int.Cl.³

A 63 H 33/12
G 09 B 19/00

識別記号

庁内整理番号

2107-2C
6612-2C

⑭ 公告 昭和59年(1984)12月6日

(全4頁)

1

2

⑮ 知育組おもちゃ

⑯ 実 願 昭55-113060

⑰ 出 願 昭55(1980)8月8日

⑱ 公 開 昭57-35967

⑲ 昭57(1982)2月25日

⑳ 考 案 者 今井 忠彦

東京都新宿区高田馬場1-32-13
サンマークビル 株式会社教育研
究社内

㉑ 出 願 人 株式会社サンマーク出版

東京都新宿区高田馬場1-32-13
サンマークビル

㉒ 代 理 人 弁理士 早川 政名

㉓ 実用新案登録請求の範囲

板状体と少なくとも二以上の螺子状棒体とこれらに螺合着脱可能な少なくとも一以上の連結体とからなり、板状体は板面中心に上記螺子状棒体の螺子外径よりも僅か大径の通孔を貫通設けると共にこの通孔周囲に上記連結体の嵌合窪部を適宜敷設し、螺子状棒体はフランジを境として一方に少なくとも一ピンチ以上の短尺螺子部を設けると共に他方に該短尺螺子部よりもピンチ数の多い長尺螺子部を設け、連結体はピンチ数が上記短尺螺子部の少なくとも二倍以上で且つ長尺螺子部よりも少ない螺子孔部を設けた知育組おもちゃ。

考案の詳細な説明

本考案は幼児用の知育組おもちゃに関し、幾通りもの遊び道具を組立て可能にして、幼児の創造力を高め同時に指、手先を器用に発達させて、これら遊びながら習得することのできるものを提供することを目的とする。

以下図面に基いて本考案の実施の一例を詳細に説明する。

本考案の知育組おもちゃは板状体Aと、少なくとも二以上の螺子状棒体Bと、少なくとも一以上

の連結体Cとで構成されて互いに螺合着脱自在であり、夫々はポリエチレン等の合成樹脂材で幼児が危険なく扱えるような大きさと重さに柔軟性を持たせて成型している。

5 板状体Aは角形状或いは図面に示す円形の適宜中空形態とし、その表裏の板面中心には凹窪部7、7を連結体C径よりも幾分大径状に設けると共に両凹窪部7、7の底面中心に亘り通孔1を同凹窪部よりも小径で螺子状棒体Bの螺子外径よりも僅か大径状に貫通設け、且つ表裏板面における夫々の凹窪部7周囲には嵌合窪部2…をこれに連結体Cが外し可能に圧入着し得る径と深さに適宜敷(図面上で穴所)配設している。

15 螺子状棒体Bは適宜大きさの中空状にすると共に外径が連結体Cと同径で巾が凹窪部7深さと同じ環状フランジ3を境として一方には少なくとも一ピンチ以上で数ピンチまで(図面上では二ピンチ)の短尺螺子部4を設け、他方には該短尺螺子部4よりもピンチ数が数倍以上(図面上では大略八倍)多い長尺螺子部5を設けている。

20 連結体Cは筒状の中心に螺子孔部6を螺子状棒体Bの短尺螺子部4よりも少なくとも二倍以上で多くとも略三倍前後まで(図面上では二倍)のピンチ数に貫通させて設けており、且つ外周面には連続して並列する多数の断面半円状突条からなる滑り止め面8を形成している。

30 したがって本考案によれば、板状体Aの各嵌合窪部2に連結体Cを夫々着脱自在(第2図)である。又、螺子状棒体Bの短尺或いは長尺螺子部4、5に連結体Cを螺合脱着自在であり、又フランジ3で螺合範囲を二ピンチに規制されている短尺螺合部4に連結体Cを螺着し、この連結体Cにおける残る二ピンチ分の螺子孔部6に別の螺子状棒体Bをその短尺或いは長尺螺子部4、5を螺着させて連結組立て自在であるし、さらに螺合範囲が連結体Cのピンチ数を越えて実質的にフリー状の長尺螺子部5に連結体Cを二ピンチ完螺合し、この

連結体Cの残る二ピッチ分の螺子孔部6に他の螺子状棒体Bをその長尺螺子部5を螺着させて接続組立て自在である。さらに又、螺子状棒体Aと連結体Bを多数使用して適宜長く接続し長棒状に組立て自在(第3図)である。

又、板状体Aの各嵌合窪部2に連結体Cを嵌合すると共にその連結体Cの螺子孔部6に短尺或いは長尺螺子部4, 5を螺着させて、板状体Aに各螺子状棒体Bを連結し短脚テーブル状に組立て自在(第4図)である。

又、板状体Aにおける三ヶ所の各嵌合窪部2に連結体Cを嵌合すると共にその連結体Bの螺子孔部6に短尺螺子部4の螺着し且つこの螺子状棒体Bの長尺螺子部5に別の連結体C次いで螺子状棒体Bを夫々螺着して、板状体Aに二本継ぎ状の各螺子状棒体B, Bを連結し長脚テーブル状に組立て自在(第5図)である。

又、板状体Aの通孔1に長尺螺子部5を貫通した後、同部に連結体Cを螺合して、連結体Cとフランジ3とで通孔1周縁部を挟着し板状体Aに対して一体の螺子状棒体Aを、板状体中心の底面側に短尺螺子部4が、上面側に長尺螺子部5が夫々突出状に位置するように独楽状に組立て自在(第6図)である。

又、板状体Aの通孔1に長尺螺子部5を貫通した後、同部に連結体Cを螺合して、連結体Cおよびフランジ3で通孔1周縁部との間に遊びを残して挟持させると共に斯る螺子状棒体Bの短尺螺子部4に別の連結体Cおよび螺子状棒体Bを順次螺着し、螺子状棒体Bに対して状状体Aを、板状体の両側に長尺螺子部5, 5が在つて且つ長尺螺子部5を軸として板状体Aが回転し得るよう中車状に組立て自在(第7図)である。

尚、上記実施例において、板状体Aを複数とするのを妨げず、それにより組立て態様はさらに増加し得る。

本考案は以上のように構成したので、幼児が板状体、螺子状棒体、連結体を適宜組合せて、長棒、脚の長さが長短異なるテーブル、独楽、中車等の種々の玩具を組立て分解して創作遊ぶことができる。

そして、板状体の嵌合窪部に連結体を嵌込みまた外したり、螺子状棒体と連結体とを互いに螺合着脱して単に螺じ回し遊ぶ初歩の段階から、短尺螺子部に連結体を螺合すると共にこの連結体を螺合すると共にこの連結体に別の螺子状棒体を螺合して一つの連結体で二本の棒体を接続遊ぶ段階、さらに連結体に対する螺合範囲を思考して夫々長尺螺子部を螺合し二本の棒体を接続遊ぶ段階、これら操作に基づき多数本の螺子状棒体を連結体で接続遊ぶ段階、さらに発展してテーブル、独楽、中車等の高度な創作を要する組立てまで、遊びを通じて自由な発想による創造力が養われ、同時に指、手先の動きを発達させて器用に育てることもできた。

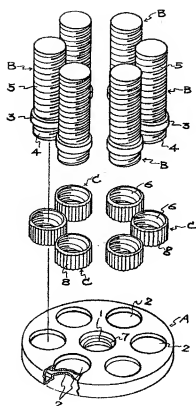
依つて、幼児の知育向上に有用で、所期の目的を達成し得る。

25 図面の簡単な説明

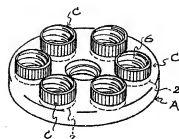
第1図は本考案組おもちゃの一実施例を示す分解正面図、第2図乃至第7図は各組合せ態様を示し、第2図および第4図および第5図は斜視図、第3図は正面図、第6図および第7図は一部断面して示す正面図である。

30 図中、Aは板状体、Bは螺子状棒体、Cは連結体、1は通孔、2は嵌合凹窪部、3はフランジ、4は短尺螺子部、5は長尺螺子部、6は螺子孔部。

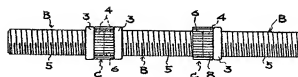
第1圖



第2圖

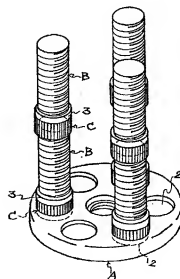
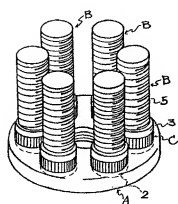


第3圖

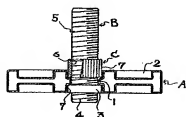


第5圖

第4圖



第 6 図



第 7 図

